

EPA原薬倉庫増設

備前
化成 安定供給へ保管量倍に

医薬品や健康食品を製造する備前化成(赤磐市徳富)は、自社で生産し、中性脂肪を下げる薬に使われるEPA(エイコサペンタエン酸)の原薬を保管する倉庫を増設した。保管量を従来の2倍に引き上げ、安定供給を図る。

本社屋北側の駐車場があった場所に、鉄骨平屋約330平方メートルを建設。液体状のEPAを保管する。空調管理などの設備

は通常の倉庫より厳密なものを導入し、国際的な品質管理基準「原薬GMP」に対応した。5月に完成し、今月4日から稼働している。投資額は非公

表。
EPAは青魚に多く含まれる不飽和脂肪酸の一種。

血液や血管を健康な状態に保つとされ、高脂血症や動脈硬化などの治療薬に用いられる。同社は1998年から製造をスタート。現在はカタクチイワシを搾った魚油を原料に、独自の抽出・精製技術により業界トップクラスという純

度97%以上の原薬を量産めた。

し、大手製薬会社提供している。従来の倉庫では、大手製薬会社提供している。従来の倉庫では、分野で高いシェアを占めており、今後は海外展開も視野に入れているという。「一般消費者の認知度は低いかもしれないが、皆さんの健康を支える重要な役割を担っていると自負している。誇りを持って今後も取り組む」としている。

(榎田 雄)

備前化成が増設したEPA原薬の倉庫

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。